

日本生体医工学会 平成23年度 第3回理事会 議事録

日時：平成23年10月27日 14:00～17:00

於 ホテル東京ガーデンパレス 3F 白鳳

出席者

| 会長 | 副会長 | 理事 | | | | | | | | | | | | | | | 監事 | 幹事 | 幹事 | 支部長 | | | | | | | 事務局 | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 田村 俊世 | 砂川 賢二 | 千原 國宏 | 阿部 裕輔 | 生田 幸士 | 伊関 洋 | 大城 理 | 小笠原康夫 | 楠岡 英雄 | 佐久間一郎 | 佐藤 正明 | 篠原 一彦 | 嶋津 秀昭 | 杉町 勝 | 千田 彰一 | 林 紘三郎 | 牧川 方昭 | 湊 小太郎 | 山家 智之 | 堀 正二 | 橋爪 誠 | 中村 亮一 | 南部 雅幸 | 木村 主幸 | 山口 昌樹 | 松田 兼一 | 福井 康裕 | 岩田 憲一 | 山越 憲一 | 梶谷 文彦 | 武田 伸彦 |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 委 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 委 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | ○ |

配付資料

- 23-3-2 第2回理事会議事録
- 23-3-3 平成23年度第3回理事会入退会審査対象者
- 23-3-4 第33回第2種ME技術実力検定試験報告書
- 23-3-5 理事長／副理事長選出規定案
- 23-3-6 平成23年度選奨委員会委員案
- 23-3-7-① 平成24・25年度理事選挙用名簿
- 23-3-7-② 平成23年度選挙管理委員会委員案
- 23-3-8-① 学会誌編集状況
- 23-3-8-② 第4回日本医学雑誌編集者会議シンポジウム
- 23-3-8-③ 平成23年度第2回電子メール委員会集計結果
- 23-3-9 生体医工学科連絡委員会 活動報告
- 23-3-10 日本医学会110分科会における医学研究に係わる利益相反(COI)対応の現状アンケート
- 23-3-12 IEEE EMBC'13 開催概要
- 23-3-13 専門別研究会(持ち回り理事会審議・結果)
- 23-3-14-③ 他団体との共催・後援・協賛状況
- その他(番号無し) 第2回RS専門別研究会 案内
平成22年度厚労科研補助金「サージカルトレーニングのあり方に関する研究」総括研究報告書
第33回第2種ME技術実力検定試験筆記試験問題(午前の部)
第33回第2種ME技術実力検定試験筆記試験問題(午後の部)
IEEE EMBC'13 1st Announcement
第51回日本生体医工学会大会 開催概要
荻野賞について
第50回日本生体医工学会大会収支報告並びに収益金の使途について
おかやま医療機器開発プロフェッショナルセミナー 案内

1. 開会
理事会成立.

2. 議事録承認(審 総務 湊 資料23-3-2)
承認された.

3. 入退会状況(審・回覧 会員 湊 資料23-3-3)
湊理事より報告.

4. 第33回第2種ME技術実力検定試験報告並びに合格者の認定の件(報・審 ME技術教育 嶋津 資料23-3-4)
嶋津理事より説明. 例年通り. 受験者は漸増. 承認された

5. 理事長・副理事量選出規定について(報 総務/定款改定 WG 湊 資料23-3-5)
湊理事より変更案の説明. 会長より日程について確認.

6. 平成23年度選奨各賞選定委員会委員案の件(報・審 選奨 小笠原 資料23-3-6)
小笠原理事より説明. 承認された.

7-1. 平成24・25年度理事選挙用名簿の承認の件(報・審 選挙管理 嶋津 資料23-3-7-①)
嶋津理事より説明. 名簿確認状況が把握できているか確認. 数名より変更連絡あり. 予定として選挙案内を11月中旬発送, 12月中旬返送〆切り, 1月理事会までに集計の予定. 監事は現在M系2名のため今回のみ特例でE系のみから選出. 承認された.

7-2. 平成23年度選挙管理委員会委員承認の件(報・審 選挙管理 嶋津 資料23-3-7-②)
嶋津理事より説明. 承認された.

8-1. 学会誌編集状況(報 編集 牧川 資料23-3-8-①)
牧川理事より説明. 理事からの新たな特集の提案を希望する.

8-2. 第4回日本医学雑誌編集者会議シンポジウム報告(報 編集 牧川 資料23-3-8-②)
牧川理事より説明.
経過説明, 医学用語, 2重投稿・重複発表が主な話題. であった.

1. PubMed Central への登録を推奨. 現在本邦誌は2誌のみ. PubMed と違い前ページ一般公開(制限無し). ただしXML形式でのデータ準備が必要である.

2. 医学用語辞典 投稿規定に医学用語辞典準拠の様ご使用を盛り込むことを要請される

3. 2重投稿・重複発表について. 許されない理由. 北欧からは言語違いは認めろとの声.

特に読者群が違う場合は編集委員会の承認と出典の明確化があれば2重・重複は認めるべきとの意見.

8-3. 平成23年度第2回電子メール委員会集計結果(報 編集 牧川 資料23-3-8-③)
牧川理事より説明. 以下の議題についてメール審議を行った.

1) 学会誌のグローバル化(英文電子ジャーナル)

2) 投稿規定の変更

3) オンライン査読システム(J-STAGE)

1) 学会誌のグローバル化(英文電子ジャーナル)について.

J-Stage(発刊実績が必要)を利用した英文誌の創刊についての試案を提示. 全員の賛同(4名のみ条件付き)を得た. 次に経費の問題について4つの案(英文誌のみ有料, 共に有料, 共に無料, 本誌のみ有料)を提示. 集計の結果有料化の方針で当面の英文誌の有料/無料についてはほぼ2分(17対15)された.

本件について審議.

・ 経費案について試算根拠は妥当であるか.

・ 英文の質(校閲)の担保について. 最終的に **Editor** が責任を担保する必要があるがどのような方法をとるか. ネイティブの **Editor** が必要か.

・ 十分な投稿件数が見込めるのか(国内学会の英文誌に投稿の価値を認める研究者がどれだけいるか). 英文誌・有料化双方について影響を考える必要がある.

- 機械学会バイオエンジニアリング部門の英文誌(JBSE)は約 7 本/号, 4~5 号/年. IF は 1 以下. あまり集まっていない.
- 英文誌発刊にあわせ, 和文誌の廃止を検討すべきではないか. しかし発刊と同時の和文廃止は不可能ではないか.
- M 系の場合英文でないと論文誌自体の存在意義がない. 和文は教科書としての役割にしかない.
- 和文誌の有料化は負担になるかどうか. シンポジウム論文は有料だが投稿数多いので問題無いのではないか.
- 有料ジャーナルに投稿するかどうか. 大学外の M 系(民間病院等)が増えて自腹での投稿が増えている中, 無名の有料ジャーナルで投稿されるだろうか.
- 英文投稿を増やすために無料化やインセンティブを設けるべき.

などの意見が出された.

方針としては

- ・ 英文化(電子ジャーナル)を進める
 - ・ 有料化についてはさらに検討を続ける
- こととした.

2) 投稿規定・執筆要項の変更について

変更事項要点は以下の通り.

●投稿規定

- ・ 現行の種類
- ・ 2 重投稿の禁止

●執筆要項

- ・ 英語投稿に対する英文校閲の確認

●テンプレート・手引を新規作成.

- ・ 行のナンバリングを挿入.
- ・ 査読の効率を重視.

審議

- ・ テンプレートに「おわりに」がない
- ・ テンプレートの導入で印刷事組付の手数料が安くなるか→影響なし
- ・ 英文校正をうけていない論文は受理しないのか. → 受理する
- ・ テンプレートは Word のみか. 投稿時は pdf のみか, Word も認めるか.
- ・ 手引きの「貴君」という表現は不適切ではないか → 変更
- ・ 2 重投稿への罰則は投稿規定でなく別途独立した規定にすべきではないか

改訂を加えて運用を開始する.

3) オンライン査読システム(J-STAGE)の利用について

1 名(保留)を除き全員賛同. 使用システム(ScholarOne と Editorial Manager)の選択については Editorial Manager の選択が多い.

メール審議結果に基づき進める.

9. 生体医工学科連絡委員会 活動報告(報 生体医工学科連絡 林 資料 2 3-3-9)

林理事より資料に基づき報告. パンフレット配布, 進学相談会を実施. 作文コンテストの応募は 8 件であった. 雑誌「ニュートン」の特集記事は出版社への企画案を作成中. 日経新聞「テクノルネッサンスジャパン」に本学会後援.

意見

- ・ 作文コンテストの対象は大学生まで拡大しないか→大学院受験者は現状でも割といる. あくまで学部目標で中高生のみ対象で今後も実施する

- ・表彰式は学会で行うべき。上位入賞者のみ。表彰式経費は学会もしくは表彰式を行う大会(51回大会)が負担。→大会での実施は賛成。経費については大会負担で検討する(50回大会剰余金を利用)
- ・パンフレットの評判が良い。残り6000部は事務局に保管する。

10. 日本医学会 110 分科会における医学研究に係わる利益相反(COI)対応の現状アンケート及び今後の委員会設立について(報 利益相反 篠原 資料 23-3-10)
篠原理事より説明。アンケートに牧川編集委員長名で資料の通り回答した。
回答は基本的に「未定」「検討中」で行っている。

11. 第51回大会準備状況報告(報 第51回大会 橋爪 資料その他)
橋爪大会長より資料にて報告
特別講演4件、特別企画2件、シンポジウム12件、パネルディスカッション21件、コメディカルセッション3件、イングリッシュセッション、ワークショップ(NEDO)1件を予定。

EMBC との共催である52回を見据え、イングリッシュセッションを充実させる。
50回大会では50演題を集めている。

12. EMBC'13 準備状況報告(報 EMBC'13 砂川 資料 23-3-12)
砂川理事より報告。EMBC'11での理事会にて報告の資料。
要点は以下

- 震災・原発への不安を解消
- 共催のJSMBEの英語化について：50回大会の実績では
Abstract はほぼ英語化
予稿集は40%程度の英語化
イングリッシュセッションの件数増加
- 為替レートについて：円建てでの参加費設定は承認された。異常な円高により例年よりはドル建てでは割高にならざるを得ない。
- EMBC'11 ブースにて1st Announcementパンフレットを2000部配付。

13. 専門別研究会評価委員会からの御願いについて(新規申請の期間)(報 持ち回り審議 生田 資料 23-3-13)
生田理事より説明。研究会の設置期間9年を3年に変更することについて。
メール審議の結果は諾。設置規程変更は今年度は行っておらず附則を作成し運用する。

審議の結果、設置期間は3年・9年から選ぶ運用を続けるが、それぞれの設置期間の意義を明確化した説明文を作成することとした。

14. その他

1) 第50回日本生体医工学会大会収支報告並びに収益金の使途について
佐久間理事より説明。収入23,289,362円、支出14,966,386円。
震災の影響(参加者数には影響しなかったこと、50周年記念講演会を中止したこと、会場を変更し会場費負担が0となったことなど)などにより8,322,976円の剰余金が発生した。
その使途として①震災地への寄附②次期大会への繰り越し③東京電機大学への寄附④医工ものづくりコモンズへの支援⑤税金等諸費用、を提案。

審議

- ・ 寄付行為が定款上問題無いか確認。
- ・ 電機大学への寄附は対価(会場使用)を得ているので問題無いと考えるただし電機大学が使用料でなく寄附金の形で受け取ることで脱税行為をしたと見なされない様に確認すること。

- ・ 学会からの震災地への寄附は会員の承認(総会)が必要では無いか.
- ・ ②の次期大会繰越金から作文コンテスト表彰会計費を支出する.

審議の結果、①の震災寄附のみ再確認し、それ以外については承認された.

2) 国際委員会報告

佐久間理事より IFMBE Asian Pasific Travelling Fellowship Grants について報告.

田村会長から 50 周年記念講演会について報告. Workshop でなく東京と大阪での講演会の形式で実施する.

3) 荻野賞について

田村会長より説明. 荻野会長より現在の経済状況から寄附金(5000 万)の運用による 50 万円の賞金確保が困難と考えられるので、毎年 100 万円の寄附による 2 件選定のご提案を頂いた.

来年度から実施. 平成 24 年度予算に寄附が入るが、平成 24 年度荻野賞から実施するか 25 年度荻野賞から実施するかについて(入金と出金の順序を守るか、会計年度に準拠するか)は検討する.

4) 第 2 回 RS 専門別研究会 案内

伊関理事より紹介.

5) 平成 22 年度厚労科研補助金「サージカルトレーニングのあり方に関する研究」総括研究報告書

伊関理事より紹介.

6) おかやま医療機器開発プロフェッショナルセミナー

林理事より紹介

7) 一般社団法人化の準備状況について

事務局より経過報告.

公認会計士の確認作業中. 事業内容の詳細化を実施中.

登記は 4 月 1 日予定.

以上